

# 自宅が特養の部屋に

## 包括ケアの基幹的制度へ

### 介護の

### 現場から

県内事業所を歩く

定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、医療ニーズが高い要介護高齢者の在宅生活を24時間体制で支えようと、2012年度に創設された。日中・夜間を通じて、定期的、そして必要な時に訪問介護と訪問看護が受けられる仕組みだ。訪問時間が数分にすぎない服薬管理などにも対応できる。

「薬を確認させてください」「大丈夫ですね。では飲みましよう」。定期巡回に訪れた潤生園ホームヘルプサービスの訪問介護員が、82歳の女性に優しく語り掛けた。女性は小田原市の住宅街で1人暮らし。病気を抱えるが「自宅を離れたくありません」ときっぱり。「ヘルパーさんが来てくれて心強いです」と安心して

◆潤生園ホームヘルプサービス 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護、訪問介護。社会福祉法人「小田原福祉会」(時田純理事長)。小田原市蓮正寺997の1。池野和憲管理者。

## 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 潤生園ホームヘルプサービス (小田原市)



利用者宅を訪問し服薬を確認をする訪問介護員 (右)

た表情を見せた。都内の自宅から週1回介護に来るといふ長女(58)は「母は認知症で薬の飲み忘れが多くなり、定期巡回・随時対応型を利用することにしました。毎日しっかり薬を飲むようになって病状も安定しました」と語る。「24時間対応で必要な時に来てくれる。買い物も頼める。料金も高くはない」と、同制度の利点を指摘した。

一般の訪問介護は、訪問回数・時間によって料金が決ま

り、使えば使うほど料金がかかる。これに対し、定期巡回・随時対応型は要介護度に応じた定額料金。オムツ交換、水分補給、食事、服薬管理、洗濯物の片付け、買い物、床ずれの処置など、長短の介護、看護が1日複数回必要な人も安心して利用できる。

事業所にとっては、必要なサービスを提供し終えれば短時間で次の利用者宅に行ける。人材不足が深刻化する中、人材を有効活用できる。潤生園ホームヘルプサービスの池

野和憲管理者は、「地域全体が特別養護老人ホーム、利用者さんの家が各部屋、道路という廊下を職員が車で移動するイメージです」と語る。

同制度の創設に当たっては、潤生園を運営する小田原福祉会の時田純理事長が大きな役割を果たした。赤字ながらも地域のために夜間対応型訪問介護事業に取り組みんでいた事業所仲間と08年に「24時間在宅ケア研究会」を設立し、初代理事長(現在は名誉会長)に就任。研究会は厚生労働省の調査研究事業を行うなどして提言をまとめ、制度創設を導いた。ただ、ケアマネジャーや利用者の理解は十分とはいえず、本格的普及はこれからだ。

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護は地域包括ケアシステムの基幹的制度となるもの」と時田理事長。「この制度を発展させないと地域包括ケアシステムは進まない。制度的にまだ緻密でないところもあり、現場から提言して改善させていきたい」と力強く語った。(熊谷 和夫)

